

のむら復興まちづくりデザインプロジェクト

～復興のパズル みんなでつくる 未来のカたち～

取組概要

- 平成30年7月豪雨災害で甚大な被害を受けた西予市野村地区。
- 大規模な浸水被害を受けたエリアを魅力ある空間に再整備するため、**住民主導+多様な主体との協働**によるワークショップを通じて、**空間のゾーニング・設計づくりを実施**。
- 更に「**ハードとソフトの一体的融合**」を目指し、現段階から整備後の空間活用に向けたソフトプロジェクトを、**地元の高校生らと共に実践**。
- 一方、まちを創る(=整備)だけでなく、災害に強いひとづくり(=教育)のため、災害の教訓から学び合う**防災教育の新しいカタチを構築**。
- 「**つくる**」と「**まもる**」の両輪で、**復興まちづくりの実現**を目指します。

人口 35,876人 (R4.1.1現在)

担当 政策推進課復興支援室



▲ ワークショップと菜園共創プロジェクト

取組の効果

- 住民主導による空間整備の**基本設計が完成**。
- 愛媛大学と共に継続した防災学習プログラムを開発・実践し、「避難場所に関する知識」を「よく知っている」と答えた児童の割合が大幅増加(36%→64%)するなど**学習効果が発現**。 など



創意・工夫した点

- ワークショップの運営は、関係者間で**明確な役割分担**をすることで、特定の担当に**負担が集中しない体制**を構築。
- 防災学習は、**インプットとアウトプットの相互学習**により深い理解と応用力を養うことが可能。
- 学習成果を災害伝承展示室に展示することで、個人の学びが次の学びにつながる「**学びの循環**」を創出。

他団体へのアドバイス

○何より「**継続**」と「**積み重ね**」が力に。継続するために**事務分散型の体制づくり**が重要だと考えます。



▲ 災害から学ぶ防災教育